

白藍塾オリジナル

2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・看護医療学部

今年度は、読解問題+論述問題という、例年どおりの2問立てになっている。

課題文は、有名な経済学者が福沢諭吉のエピソードを紹介したエッセイ。内容は読みやすい。

問題1は、福沢の「物事の本質を見抜く観察の目」とは何かを説明する問題。課題文の中にそのことについての説明がないので、これが意外と難しい。ただ、筆者の紹介しているエピソードからは、ビールの飲み方という一見何気ない現象の背後に、福沢が日本と外国との文化的な違いを見て取っていることがわかる。つまり、福沢には、物事の表面に囚われず、その背後にある文化的・社会的な背景や要因を読み取る能力があるわけだ。そのことを、字数に合わせてまとめればよい。

問題2は、「福沢諭吉のもっていたリベラリズムの思想」について論じることが求められている。これも、リベラリズムについての説明が文中にないので、少しとまどうかもしれないが、難しく考える必要はない。咸臨丸のエピソードを読めばわかるように、福沢は船の中の階級制の厳しさに憤慨し、最下級の水夫の境遇に同情している。「天は人の上に人を造らず〜」という福沢の有名な言葉を覚えていれば、これが福沢の平等思想の現れであることがわかるはず。つまり、「福沢諭吉のもっていたリベラリズムの思想」というのは、階級による差別を否定する平等思想と断言していいだろう。

第一部で、こうした読み取りを簡潔に示すとよい。とは言っても、もちろんこうした平等思想に反対することはできない。そんなことをすると、そもそも医療者としての適性を疑われてしまう。「私も、こうした福沢の考え方に共感する」などの結論から始めた上で、あとは通常の四部構成でまとめるとよいだろう。

弱者を否定しないことは医療の鉄則なので、その点を踏まえて医療のあり方と結びつけて論じることでもできる。患者主体の医療のあり方と結びつけて、「福沢の思想は、医療者と患者を対等と見なし、患者の権利を尊重する現代医療の考え方に通じる」といった論じ方をすることも可能だろう。だが、無理に医療と結びつける必要はない。民主主義や人権思想と結びつけて、平等思想の重要性をしっかりと論じるだけで、十分説得力のある内容になるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>